

# 10 理科の観察・実験活動の充実と教員の資質向上を図る 理科支援員配置事業



理科支援員配置事業

サイエンスパートナーシップ

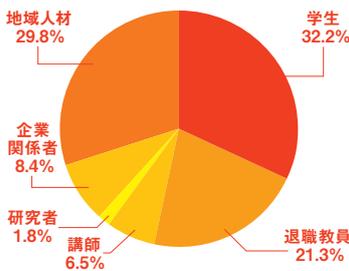
バーチャル科

## 事業の概要

**小** 学生の理科への興味・関心を高め、学習目標を達成させるために、観察や実験の授業が重要視されている。しかし、小学校理科授業の現場では文系出身の教員も多く、理科の実験指導に苦手意識を持つ教師が少なくない。また、観察・実験を行うためには、準備にも時間がかかることから、十分な実験の授業をなかなか行うことができないというのが実情だ。

こうしたことから、JSTでは、学生、退職教員、地域の人材など、理科教育に関する知識や経験のある学校外部の人材を、理科支援員として小学

### ● 理科支援員の内訳 (平成22年度)



校5,6年生の理科授業に配置し活用する理科支援員配置事業を行い、観察・実験活動の充実と、教員の資質向上を図ろうとしている。

理科支援員は、主に「観察・実験などの実施の支援」「観察・実験などの準備や後片付け」「観察・実験などの計画立案や教材開発の支援」などの活動を行う。

平成21年度は全国で6138校、平成22年度は4205校にこの理科支援員が配置されている。理科支援員が配置された小学校へのアンケート結果によれば、「理科が面白くなった」と答えた児童、「児童へきめ細かな指導ができるようになった」と答えた先生ともに80%を超えるなどの成果があがっている。

## 実施事例から

### 奈良県田原本町立東小学校

理科支援員:退職教員

児童数119人の小学校。この学校には、退職教員が理科支援員として配置されている。小学校の教頭などを歴任した経験を持ち、現役の頃から自作教材の開発に力を注ぐなど、理科教育に関して知識・経験ともに豊富な理科支援員だ。

活動は月2回、年間で36時間。活動内容は実験の準備や後片付け、実験中の補助。担任教員が授業を進め、理科支援員が補足説明や専門



単元:6年生「月と太陽」(2時限連続)

的な解説を行うなど、担任教員と理科支援員がよく連携した実験授業が行われている。経験豊富なだけに、学校や教員に対して、授業方法や理科の備品整備についてなど、いろいろなアドバイスも行っている。

こうした活動を通して、児童が興味を持って理科に積極的に取り組むようになっただけでなく、教員自身が理科を好きになり、力量アップにもつながっているという。

### 富山市立蜷川小学校

理科支援員:大学生

児童数710人の大規模な小学校。この学校には、富山大学理学科に在籍する3年生の女子学生が理科支援員として配置されている。

活動は、毎週金曜日の午前中で、年間で20回ほど。主に実験の準備や後片付け、実験中の補助などを行っている。



単元:5年生「流れる水のはたらき」

学生なので、教育現場での経験はないが、児童と年齢が近いため、理科の得意なやさしいお姉さんという立場で、児童たちのなかに溶け込んでいく。彼女の存在によって、この学校では教員の実験準備や後片付けの時間的負担が軽減され、実験がスムーズに行えるようになったという。

このような学校側のメリットだけではない。教員を目指す現役学生が理科支援員として配置された場合、実際の教育現場を生で体験できる貴重な場にもなっている。

TEXT: 大宮耕一